

# 令和2年度 決算の状況

2年度の決算は、9月～10月に行われた市議会でも審査され認定を受けました。市民の皆さんが納めた税金や、国・都からの補助金などが、皆さんの暮らしやまちづくりのためにどのように使われたのかをお知らせします。

市の会計は「一般会計」、「特別会計」、「企業会計」に分かれています。企業会計の決算の状況は6ページをご覧ください。

## 一般会計・特別会計

### 一般会計は収入・支出とも増加

一般会計・特別会計の決算の状況は、下の表のとおりです。一般会計は、行政を運営するために必要となる基本的な収支を管理している会計です。収入は565億2754万円、支出は547億67万円でした。元年度と比べると、収入は地

方交付税や分担金及び負担金が減ったものの、国庫支出金や地方消費税交付金などが増えたため、99億3819万円(21.3%)増加しました。支出は、特別定額給付金などの総務費が増えたため、95億1768万円(21.1%)増加しました。

### 市税収入は増加

市税収入は198億9877万円です。個人市民税や固定資産税などが増えたため、元年度と比べると、5918万円(3%)増加しました。

また、市税の収納率は、新型コロナウイルス感染症の影響などにより、市税全体で98.5%と、元年度に比べて0.1ポイント低下しました。

### 支出額は市民1人当たり48万1723円

一般会計の支出額を市の人口11万3552人(令和3年1月1日現在)で割ると、市民1人当

たり48万1723円の支出をしたこととなります。その内訳は、左下の図のとおりです。性質別に見ると、会計年度任用職員制度の開始があった人件費や、特別定額給付金を支給するための補助費等が増加しました。

令和2年度一般会計・特別会計の決算

	最終予算額	収入額	支出額	収支	
一般会計	579億4326万円	565億2754万円	547億67万円	18億2687万円	
特別会計	国民健康保険	122億3412万円	116億3070万円	113億2337万円	3億733万円
	介護保険	96億6626万円	96億1896万円	92億9802万円	3億2094万円
	後期高齢者医療	26億3282万円	26億3531万円	26億609万円	2922万円
	中神土地区画整理事業	2億1588万円	1億7475万円	1億6974万円	501万円
	合計	826億9234万円	805億8726万円	780億9789万円	24億8937万円

### 財政力指数と経常収支比率の推移

財政力指数とは、行政を運営するために必要なお金を地方公共団体がどの程度自力で調達できるかを示す指数です。数値が高いほど財源にゆとりがあることを示します。1を下回ると財源不足となり、それを補うために国から普通交付税が交付されます。

左のグラフは過去3年間の平均値です。2年度の指数(平成30～令和2年度の平均値)は元年度の指数0.977を上回る0.979となりましたが、引き続き財源不足となり、平成22年

度から11年連続で国から普通交付税が交付されました。なお、3年度も財源不足が生じているため、4億9830万7000円の普通交付税が交付される予定です。

経常収支比率とは、市税のよりに毎年入ってくる収入に対して、人件費・扶助費・公債費といった必ず支払わなければならないお金がどのくらいあるのかを示す指標です。数値が低いほど財政にゆとりがあり、施策の開始や事業の計画変更など新たな行政需要に対応しやすいことを示します。2年度は元年度に比べて1.5ポイント減の92.4%

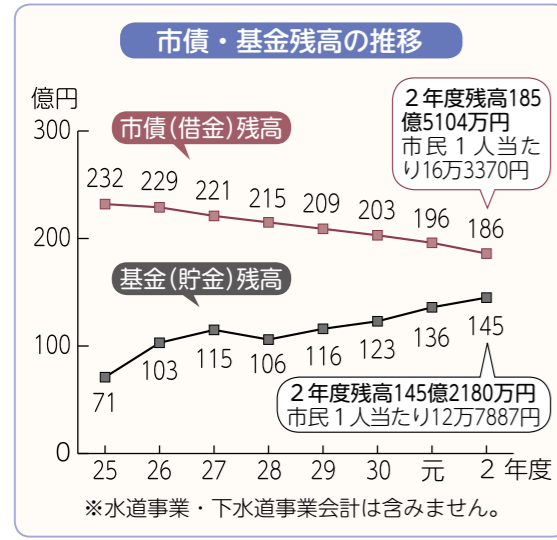
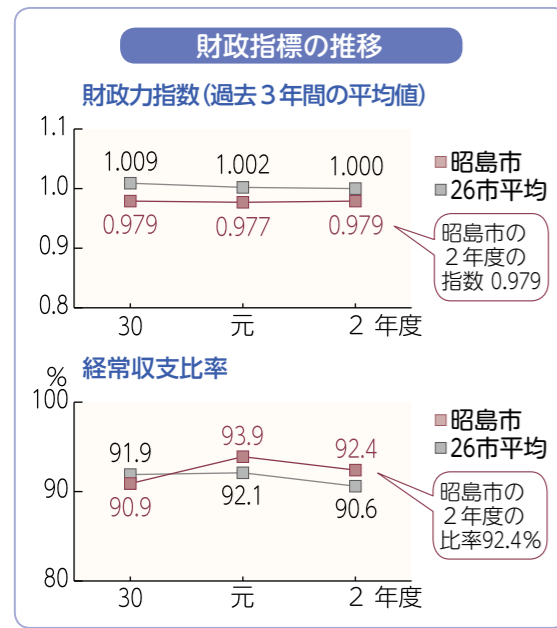
以上が2年度一般会計・特別会計の決算の状況です。厳しい財政状況の中、多発する自然災害や、新型コロナウイルス感染症への対策及び新しい生活様式の構築などのため、さまざまな事業を行いました。今後も、市民サービスの維持・向上のために、限られた財源を有効に活用するように努めていきます。

☆一般会計・特別会計については財政課へ。

でしたが、以前として高い水準であり、柔軟性に欠ける財政状況が続いています。

以上が2年度一般会計・特別会計の決算の状況です。厳しい財政状況の中、多発する自然災害や、新型コロナウイルス感染症への対策及び新しい生活様式の構築などのため、さまざまな事業を行いました。今後も、市民サービスの維持・向上のために、限られた財源を有効に活用するように努めていきます。

☆一般会計・特別会計については財政課へ。



## 令和2年度に行った主な事業

～第五次総合基本計画の着実な推進のために～

明るい地域社会の形成	
令和元年台風第19号の被害に伴う公共施設復旧	6475万円
防災行政無線デジタル化	6183万円
避難所空間確保のための備品購入	1547万円
ハザードマップの作成・配布	281万円
健康と福祉の充実	
保育園築工事費補助	2億9748万円
子育て世帯・ひとり親世帯臨時特別給付金支給	2億9554万円
高齢者等インフルエンザ予防接種無償化	1億899万円
高齢者見守り支援配食サービス	2040万円
PCR検査センター開設	1976万円
教育・文化・スポーツの充実	
アキシマエンスの管理・運営	2億3088万円
小・中学校体育館空調機器設置	2億2052万円
小・中学校コンピュータ教育(GIGAスクール)	1億2024万円
やまのかみ会館空調設備改修	4463万円

産業の活性化	
新型コロナウイルス感染症対策応援金	2億9005万円
新型コロナウイルス感染拡大防止補助	1億535万円
さきめし応援事業補助	6292万円
快適な都市空間の整備	
都市計画道路3・4・1号整備	4258万円
昭島駅南口立体自転車等駐輪場塗装等工事	3190万円
昭和公園蒸気機関車改修	1932万円
循環型社会の形成	
清掃センター焼却施設補修	2億6621万円
崖線(がいせん)緑地・公共施設樹木保全	3641万円
給水スポット設置	2989万円
[あしまの水]マイボトル缶作成	200万円
その他	
特別定額給付金支給	114億2891万円
閲覧台帳電子化	391万円
公式キャラクターグッズ作成	145万円

## 支出額を市民1人当たり換算した額は48万1723円

目的別に分けると

民生費	19万4954円	総務費	14万7113円	教育費	4万5986円
障害者・高齢者福祉、児童福祉、生活保護など		庁舎管理、徴税、統計、選挙事務、住民登録など		小・中学校教育、社会教育、公民館活動など	
衛生費	3万3914円	土木費	1万8452円	公債費	1万8276円
ごみ処理、保健衛生、予防接種など		道路管理、公園整備、市営住宅の維持管理など		市債(市が借り入れたお金)の返済	

※その他(消防費、商工費、議会費、労働費、災害復旧費、農林費) 2万3028円

性質別に分けると

補助費等	13万9814円	扶助費	13万5254円	物件費	6万761円
東京消防庁への消防事務委託金、他団体への補助金など		生活保護費、児童手当、保育所運営費など		賃金や委託料、公共施設の管理費など	
人件費	5万3776円	繰出金	3万7686円	普通建設事業費	2万330円
市長や市職員の給料、議員・委員報酬など		国民健康保険など特別会計へ支出される経費		道路の新設・改良工事費、校舎の改築工事費など	

※その他(公債費、積立金、維持補修費、災害復旧事業費) 3万4102円

市税収入の内訳

市民税			
個人市民税	72億4755万円	法人市民税	14億2485万円
固定資産税	87億8918万円	都市計画税	15億6808万円
市たばこ税	7億2921万円	軽自動車税	1億3990万円
合計額 198億9877万円(市民1人当たり17万5239円)			

### 企業会計(水道事業)・下水道事業

水道事業・下水道事業会計は、複式簿記①を採用しており、収益的収支②と資本的収支③からなっています。下水道事業は、令和2年度に特別会計から企業会計に変更されました。2年度の決算の状況は左の表のとおりです。

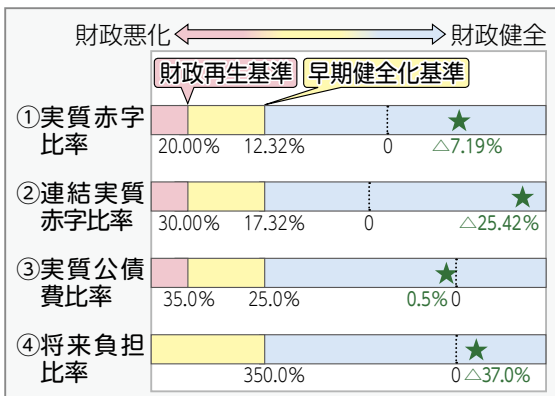
	収入	支出
収益的収支	* 営業収益 16億3874万円 * 営業外収益 1億103万円 * 特別利益 1392万円	* 営業費用 13億2069万円 * 営業外費用 172万円
資本的収支	* 負担金 1243万円 * 補助金 0万円	* 建設改良費 8億1810万円 * 企業債償還金 1457万円 * 投資、その他資産 2億9901万円

	収入	支出
収益的収支	* 営業収益 17億6403万円 * 営業外収益 5億6235万円 * 特別利益 190万円	* 営業費用 19億9337万円 * 営業外費用 5448万円 * 特別損失 1010万円
資本的収支	* 企業債 1億2060万円 * 他会計補助金 1億9491万円 * 負担金 356万円 * 補助金 2153万円	* 建設改良費 3億5108万円 * 企業債償還金 5億5165万円 * 投資、その他資産 214万円

【用語説明】  
①複式簿記＝ひとつの取引引きを原因と結果の二面から記録する会計方法  
②収益的収支＝収益・費用に関する会計で、利益または損失を明らかにする  
③資本的収支＝資産・負債・資本に関する会計で、水道施設、または、下水道施設への投資額や企業債の増減を明らかにする

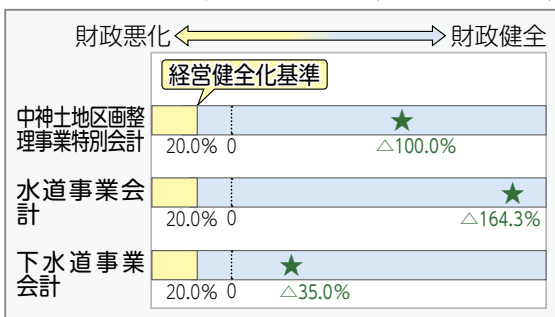
水道事業の収益的収支では4億3128万円、下水道事業の収益的収支では2億7033万円の純利益を計上しました。これは資本的収支の不足額に充てられます。  
2年度は、災害に強い水道施設の整備のための工事や、下水道施設の長寿命化に向けた改築更新の工事などを行いました。今後も、業務の効率化と適切な施設投資に努めていきます。  
☆水道事業会計については水道部業務課 ☎543 6111、下水道事業会計については下水道課へ。

図1 健全化判断比率の状況 (★=昭島市の値)



※いずれも、市の財政規模に対する①一般会計の赤字額の割合、②特別会計などを含めた全会計の赤字額の割合、③全会計の借金の返済に充てた税など一般財源の割合(3年平均)、④地方債(借金)残高など将来負担すべき実質的な負債の割合です。  
※①・②は赤字の程度を示す指標のため、黒字の場合は△(マイナス)表記となります。  
※④は負債の程度を示す指標のため、将来負担額を充てた可能財源などが上回った場合は△(マイナス)表記となります。

図2 資金不足比率の状況 (★=昭島市の値)



※赤字の程度を示す指標のため、黒字の場合は△(マイナス)表記となります。

## 令和2年度決算に基づく財政の健全化判断比率・資金不足比率を公表

地方公共団体の財政破綻を防ぐために国が定めた基準により、市では各指標を公表しています。この指標が「早期健全化基準」を超えると財政健全化計画の作成などが義務付けられ、悪化した市の財政を建て直すこととなります。  
2年度決算における一般会計及び特別会計の赤字額はなく、健全化判断比率は図1のとおりとなりました。4つの指標はいずれも早期健全化基準を大きく下回り、「健全」という結果となりました。

### 昭島市の財政は「健全」でも「厳しい状況」

各指標の数値は、市の財政状況が「健全」であることを示す結果となりました。しかし、黒字決算ではあるも

の、5ページでお知らせしたように、経常収支比率は92.4%と高い水準にあります。これは新たな施策の開始などに対応しづらいことを意味しており、健全化判断比率が良好であつても余裕はない状況です。今後も安全・安心なまちづくりへの取り組みや市民の健康づくりの推進などに努めるとともに、更なる行財政の健全化に取り組んでいきます。  
☆詳しくは、財政課へ。